

中学2年生野外活動(2024.9.26~28)

本校では、中学2年生が毎年野外活動を行っています。テントに寝泊まりして、火を起こして食事を作り、山に登るのが恒例です。今年は県立霧島自然ふれあいセンターに2泊3日で滞在し、甑岳と韓国岳に登りました。

キャンプに行く前に、生徒たちは家庭科の授業で献立を考えたり、地理の授業で登る山の地形を確認したり、テントを張る練習をしたり、実際に火を焚いてみたりと様々な事前学習を行いました。初めての経験ばかりですが、班のメンバーで力を合わせて積極的に準備をしていました。コロナの影響でこれまであまりこうした活動を行えなかったこともあってか、多くの生徒がキャンプを楽しみにしているようでした。

待ちに待ったキャンプ初日、素晴らしい天気にも恵まれて、生徒たちは甑岳登山に出発しました。白紫池や六観音御池などの美しい湖を眺めながら、2時間程かけて標高1301mの山頂を目指します。山頂付近は大人でもきつく感じる急勾配でしたが、互いに励ましあいながら何とか登頂しました。山頂からは、翌日登る韓国岳や、通ってきた湖、桜島も見ることができました。素晴らしい眺めの中で食べるお弁当は格別です。

その後下山し、バスで霧島自然ふれあいセンターに向かいました。入所式ではお世話になるセンターの方にご挨拶をして、励ましのお言葉をいただきました。そして、テントの機材や食材・調理器具の受け取り方、管理の仕方、炊事棟の使い方など、センターでのルールを教えてくださいました。慣れない環境で覚えなければならないことがたくさんありましたが、「集中して人のお話を聞き、それを理解して行動する」ということを学ぶのもキャンプの目的の一つです。生徒たちにとって良い勉強になったと思います。

練習の成果もあってかテント設営はスムーズにできましたが、夕食作りでの火起こしにはやや苦戦しました。上手くいった班のメンバーが他の班の応援に行くなど、助け合って取り組んでいたようです。また、「〇〇君がめっちゃ野菜切るの上手いんですよ！」と級友の意外な側面を発見して教えてくれる生徒もいました。

夜には班長会議が開かれ、班長を通して様々な連絡事項が伝えられます。班長には、しっかりメモを取り、それを班のメンバーに間違いなく伝えることが求められます。当たり前のことのように、これが意外と難しく、連絡事項が伝わらずに困った班もありました。一人一人が自分の役割を責任を持って果たすことの重要性を実感する機会になったのではないのでしょうか。

2日目には、日本百名山の1つで、霧島連山の最高峰である韓国岳に登りました。連日の登山で少し疲労が見える生徒もいましたが、晴天に恵まれ、景色を楽しみながら登ることができました。途中、国内外からの登山客の方とすれ違うことも多くあり、皆さん励ましのお言葉をくださったのが印象的です。山頂付近の数百メートルはゴツゴツした岩肌に見える傾斜の急な道で、体力的にもかなり苦しく感じましたが、その分山頂に到達したときの感慨もひとしおです。山頂では、みんなここでしか見られないダイナミックな景色を楽しんでいました。中には、外国人観光客の方に果敢に話しかけ、仲良くなっている生徒もいました。

3日目は、ついにお世話になったふれあいセンターを出発します。センターの方や次の利用者の方にご迷惑が掛からないように、みんなで力を合わせて大掃除をしました。持ち場の掃除が終わった後も、自分ですべきことをしっかり考えて他の場所の手伝いをする生徒がたくさんおり、級友の背中を見てあるべき姿を学べた生徒もいたようでした。退所式では、センターの方から「登山・火焚き・テントでの宿泊のすべてをこなす、こんなに本格的なキャンプをする学校は珍しい。よく頑張りましたね。」と労いのお言葉をいただき、生徒たちもどこか誇らしげに見えました。

センターを出た後、最後に高千穂牧場に立ち寄りしました。生徒たちはソフトクリームに舌鼓を打ったり、羊と戯れたりして、リラックスした時間を過ごしていました。

3日間で、友人との関係を深めるだけでなく、他者と協力して生きていくために大切な様々なことを学ぶことができたと思います。これからの学校生活やその後の人生で、彼らがこの経験を活かしてくれることを切に願っています。



甑岳登山中の様子。まだ余裕がありそうです。



甑岳山頂。束の間の休憩を楽しんでいます。



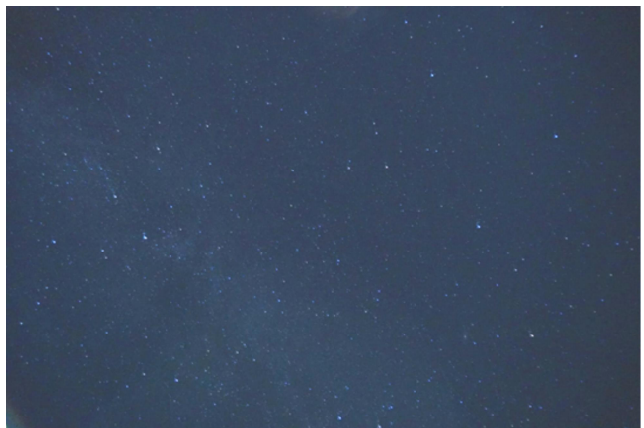
大浪池。まだまだ山頂は遠いです。



韓国岳山頂からの雄大な景色です。



山頂に到着した達成感溢れる笑顔です。



キャンプ場の星空は綺麗でした。



朝早くから炊事場で
朝食を作っています。